にねんせい

大阪市立中野中学校
第2学年 通信 No. 14
通算47号
2016･7･19

夏休みだ、本を読もう！

すべての１４歳へ

『東京のプリンスたち』／深沢七郎

昭和３４年…と言っても何年前かわからないですね。１９５９年ですから、今から５７年前に発表された中編小説。

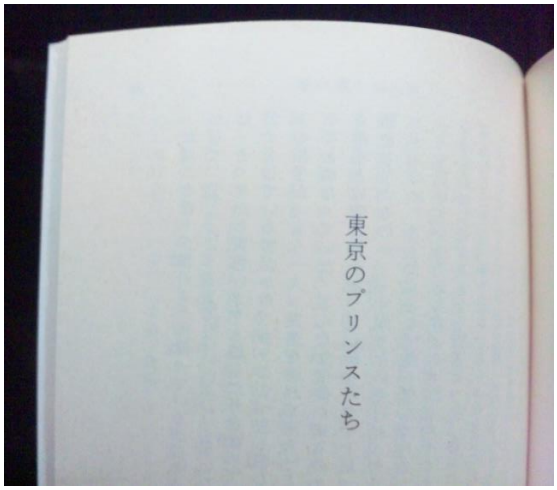
白人であるエルヴィス＝プレスリーが、ジャズやブルーズ、カントリー、ゴスペルなど、アメリカ合衆国にある黒人音楽をミックスして、ロック・ミュージックをつくりあげていた頃の、日本の十代の群像（複数の登場人物が交互に並行して描かれる）。

秋山洋介は、高校と折りあいがつかず、退学。運送屋で働き始めます。同じクラスにいた、今で言う「チャラ夫」の田中正夫は、デート中にエルヴィスの曲を聴き、彼女の機嫌をとることが面倒になって音楽喫茶に向かいます。伊藤常雄は愚連隊（ぐれんたい）（不良の集団）は、ロックを聴かないから暴力をふるうんだ、と考えます。

決して明朗、痛快な青春小説ではありません。リズムに身を委ねながら、明治時代に出版された天文学の本を拾い読む正夫や仕事に疲れ、睡魔に襲われる洋介の姿に「反抗」の後の「現実」の重さ（それから、自分で、どうする）が表現されています。

世界的小説家、三島由紀夫が「心情の美しさに充ちた作品」として絶賛した『東京のプリンスたち』は、新潮文庫の

旅と自由を愛する深沢七郎が、この翌年に発表した『風流夢譚（ふうりゅうむたん）』は、日本文学史上に残るテロを惹（ひ）き起こします。興味がある人は、検索してみてください。



正しく「反抗する」と言うこと

『長距離走者の孤独』／アラン・シリトー

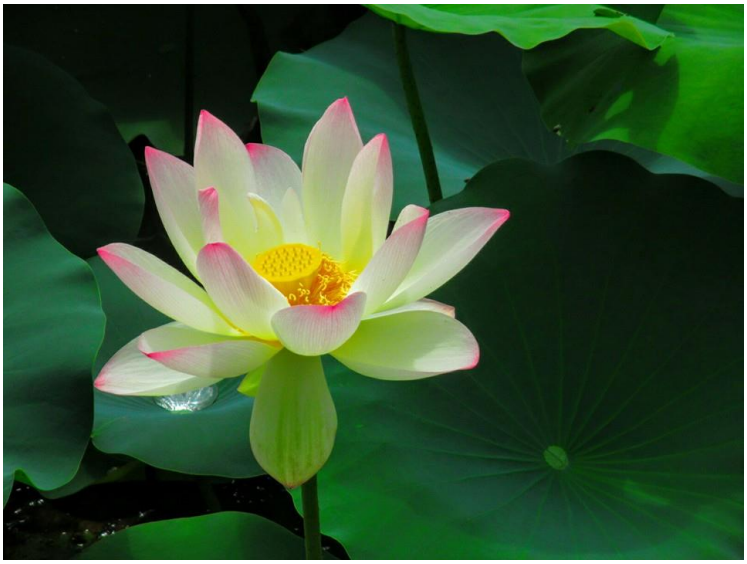
愛情に恵まれない家庭で育ったコリン＝スミスは、盗みを働き、収容された少年院で、長距離走の才能を認められます。当初は反抗的な態度であったコリンですが、オリンピック選手になる可能性があると言われ、過酷なトレーニングに打ち込みます。そして迎えた、陸上競技の名門高校との対抗戦。

『楢山節考』に収められています。	

☞　裏面に続く

２位以下を大きく引き離したコリンですが、果たしてこれは、自分のためなのか、院長の権力と威厳に服従し、少年院の名声を高めるためなのか、ゴールを前に葛藤します。

テープを切っても切らなくても、本当の明るい未来や希望につながるわけではない。コリンが選んだ途は…。

この作品は、１９５８年に、イギリスで発表されました。『東京のプリンスたち』の１年前です。安直な救いや刹那的な快楽を求めても、重く、暗い虚無が残るだけ。それでも、人が人を支配しようとする、愛なき正論あるいは理不尽には反抗する精神を描いていることは、共通していると思います。

私たちの街に長居公園、隣の街に桃ケ池（股ケ池）があります。澄んだ水よりも泥水の中でこそ大輪を咲かせる、蓮の花の季節です。蓮 ＝ lotus ＝ ロータス ＝ 仏教を象徴する花、蓮の根茎 ＝ 蓮根 ＝ レンコン が結びつかない人がいますが、宗教的な意味に限らず、心が浄化される、自分に向きあう静かな力をもらえる花の一つです。